

小学校社会科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するオンライン学習の可能性

The Potential of Online Learning to Realize "Independent and Interactive Deep Learning" in Elementary School Social Studies.

*中谷 佳子¹

*Keiko Nakaya¹

1. 千葉大学教育学部附属小学校

1. Elementary School Affiliated to the Faculty of Education chiba university

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校は「臨時休校」を余儀なくされた。千葉大学教育学部附属小学校では、3月の休校期間から「Microsoft Teams」（以下Teams）というグループウェアを使用し、全校でオンライン学習を始めた。また、7月13日から7月31日までを「オンライン登校期間」と位置づけ、休校期間と同様にオンライン学習を行ってきた。

この期間に、第3学年の社会科学習においては、千葉市の学習に重点を置き、「千葉市のようす」「千葉市のようすのうつつりかわり」に取組んだ。オンラインの学習形態である「同時双方向のリアルタイムでやり取りをする同期型授業」や「リアルタイムでのやり取りはせず、動画やワークシートを利用して課題を提示・提出する非同期型授業」、またオンライン登校期間・夏休み明けの対面授業を効率的に組み合わせ、ハイブリッド型の単元構想をした。

実践を通して、オンライン学習は、資料や課題の共有、閲覧が容易に行えること、また時間的な制約なく調べ学習を行えることなど、社会科の授業・学習と親和性が高いことが明らかとなった。また、オンライン学習では、発言が苦手な児童が、チャットやコメントの形で友だちと交流することに楽しさを感じるなど、新たな対話の仕方を提供できた。

さらに、オンライン学習で調べる学習を課題とし、十分に調べる時間をとって、登校時のディスカッション学習につなげるという展開も大変有効であった。こうしたオンライン授業をきっかけとして、多くの児童が夏休みの間に保護者と博物館や図書館に行くなどの自主的な学習も見られたことも想定外の収穫であった。

しかし、今後、急な災害時等、長期休校を余儀なくされた時には、対面授業で行っていた話し合い活動や協働学習をどのように実現していくか、ということが大きな課題となった。

キーワード：オンライン学習、ハイブリッド学習、Microsoft Teams、小学校社会科

Keywords: Online learning, Hybrid learning, Microsoft Teams, Elementary school social studies